



中筋小学校だより

校訓 ～ 強い身体 正しい心 ～

舞鶴市立中筋小学校
学校だより 11月号
令和4年10月31日発行
<http://nakasuji.maizuru.edumap.jp/>
☎ 75-0372

「山粧（よそお）う」～深まりゆく秋にこそ～



「山粧（よそお）う」とは、秋の山が紅葉によって彩られた様子を表す言葉ですが、校内の木々の葉が秋風にそよぎ、緑から赤や黄色に色づき始めています。校長室のある校舎には1年生と3年生の教室がありますが、その窓からは中庭の桜の木がすぐそばに見えます。毎日子どもたちの様子を見て回る中で、3年生の教室でふと窓の外を見ると、赤く染まり始めている葉っぱが目にとまりました。

葉には緑と黄の色素が入っていますが、黄は緑に隠れているため、普段は緑に見えます。しかし秋になると、光合成のはたらきが弱まり葉緑素が減ることで、それまで隠れていた黄が表れます。その後、カエデやナナカマドはアントシアニンという赤い色素が増え、黄は赤に隠れ、葉は赤く見えるようになります。でも、なぜ落葉前にアントシアニンが増えるのでしょうか。その理由は、葉にとって有害な青い光を赤い色素がブロックして、次の春にむけて落葉するぎりぎりまで葉の養分をたくわえるためです。イチョウやブナの葉は、アントシアニンが増えないため、赤くならず黄のまま落ちるそうです。役割を終え去りゆくものと、次への力を確かに宿すもの。この二つが共存する秋。そんな季節だからこそ、一旦「これまで」を静かに振り返り、そして「これから」を展望する力をじっくりと育みたいと感じます。

10月は、運動会をはじめ、校内マラソン大会、伝統芸能の鑑賞、社会見学、保幼小連携活動など各学年様々な行事を行いました。初めて経験することも多く、子どもたちは多くの刺激の中で成長を続けています。



特に運動会では、雨模様で開催が危ぶまれましたが、PTA役員、保護者ボランティアの方々、5・6年生児童、そして教職員の力がまさに一つになって、厳しい状況を克服し開催することができました。子どもたちもその気持ちに伝えようと一生懸命に取り組み、とても感動する運動会となりました。本当にありがとうございました。この運動会では、自分たちのために大人や6年生がなんとか運動会を行いたいという思いでつながり、行動を起こし、グラウンド全面にあった水たまりが、人々の協力により、みるみるうちになくなり、競技ができる状態になったということから、子どもたちは、運動会の競技や表現だけでは学ぶことができない貴重な学びを得たのではないかと思います。そういう意味からも関係するすべての人々の思いのこもった素晴らしい運動会でした。

さて、明日から11月となります。11月も何かと行事が多く、慌ただしい月間になりそうです。そんな中でも11月はいじめアンケート実施月であり、後半からは人権旬間の取組を行います。

先日、将来教員を目指す高校3年生の卒業生が、学校現場のことを知りたいと取材に訪れました。いくつかの質問をされたのですが、その中の一つに「子どもたちと関わる中で、教員が特に気を付けていることは何ですか」という質問がありました。改めて尋ねられるといろいろ思い浮かびましたが、私はこう答えました。「すべての先生たちは、まずは子どもたちの『安心・安全』を一番に考えていらっしゃいます。」と。朝、元気に家を出た子が、夕方元気に家に帰る。何より大切なことです。体につける傷だけでなく、心につく傷も防がなければなりません。いじめのない、一人一人の人権が守られる居心地のよい学校づくりに、さらに力強く取り組む、そのきっかけとなる11月にしていこう決意です。今後も保護者の皆様の変わらぬご支援・ご理解をよろしくお願いいたします。

校長 亀井 敬介 教職員一同

「真玉 白玉」

本校は今年度国語教育に力を入れていきます。その一環で「書く力」を育成する取組として日記を継続して書くようになっています。三年生の日記を紹介しましょう。これを読んだときに3年生とは思えない書きぶりに感嘆してしまいました。

まいづるの魚
ぼくは、しょうげきをうけた。それは、五時間目のそう合の時。ぼくたちのきゅう食で食べる魚について、知らなかった事が次々と明らかになったからだ。

魚が魚市場で、何百万たん位で売られていく様子を聞いた時、ぼくの目がとび出しそうだった。何百万という数字は想像もつかなかった。しかも、魚で小さい時だけの名前があつて大きくなったら名前がかわる魚がいてびっくりした。アジはまいうづるで一番とれるらしい。さらに、まいづるは「魚の町」と言われていることもはじめて知った。

そう合でいろんな事が知れて、魚がもっと好きになった。目の前の魚には、ドラマがあるんだなと思った。

秋季火災予防運動

(11月9日～15日)

『お出かけは

マスク戸締り

火の用心』